

野々市市発達相談センターは、心身の発達に関する相談や支援の総合的な窓口です。
発達の気になる幼児から成人の方まで、関係機関と連携して継続的にサポートを行います。

気になることがあれば、まずはご相談ください

相談受付

電話
相談



月曜日から金曜日
午前9時から午後4時まで
(祝日・年末年始を除く)

来所
相談



火曜日、木曜日 ※要予約

電話相談・来所相談の
対象は、「野々市市内に
お住いの方とご家族等」となります。



アクセス



野々市市発達相談センター
(子育て支援センター菅原併設)
☎076-248-1333

〒921-8814
石川県野々市市菅原町8番33号
E-mail:hattatsu@city.nonoichi.lg.jp

子どもの「こんなこと」 気になって いませんか?

乳幼児編



野々市市発達相談センター

子どもの特性を正しく理解しましょう

例えばこんな場面はありませんか？

—— ことば ——

★ことばの発達が遅い

- 聞こえてくることばに反応は示さないが、ことば以外の音によく反応する。



- ことばは理解していても発語がうまくできない。
- 3歳を過ぎてもことばが出ない。

- 言われたことばをそのまま返す「オウム返し」をよくしている。

- 3歳くらいまで順調にことばの発達を見せていたのに、急に何も話さなくなる。

—— コミュニケーション ——

★指さしをしない

- 欲しいものを大人に取ってほしい時に、手をつかんで引っ張っていきこうとする。

★視線が合わない

- 声をかける、顔をのぞきこむなどしても視線を合わせようとしない。
- 表情が乏しく、笑いかけたりあやしたりしても笑わない。



★一人遊びが多い

- そばで友達がにぎやかに遊んでいても気にする様子がない。

★人見知りがない・もしくは人見知りが激しい

- 人見知りや後追いがあまりみられない。
- 親以外の人でも親と同じような反応をする。または強い人見知りが見られる。

—— こだわり ——



★偏食

- 決まったものしか食べてくれない。

★興味

- 特定のおもちゃや物、数字、マークなどに強く興味を持つ。
- 本をめくってずっとその本の動きを見ているなど、ひとつの遊び方にこだわる。



—— 行 動 ——

★動き回る・繰り返し同じ行動をし続ける

- 目的もなくひたすら走り続ける。
- じっとしてられない。
- 身体の一部をいつも動かしている。
- 手をひらひらさせるなどの同じ動作をいつまでも繰り返している。



★パニック

- 不安を感じた時に、泣き叫ぶ、暴れる。
- 床などに寝転がって激しく暴れる。
- 気持ちの切り替えが上手にできない。

—— その他 ——

★音や触覚、視覚が敏感

- 車の音、笛の音、トイレを流す音など特定の音を嫌がる、もしくは怖がる。
- 特定の服や肌触りを嫌がる。
- 人に触られるのを避ける。



★抱っこされるのを嫌がる

- 抱っこするとのけぞったりして抱っこしにくい。

★歩けるようになるのが遅い

- 1歳6ヶ月を過ぎてもなかなか歩かない。もしくは歩けても歩き方がぎこちない。
- よくつま先歩きをしている。



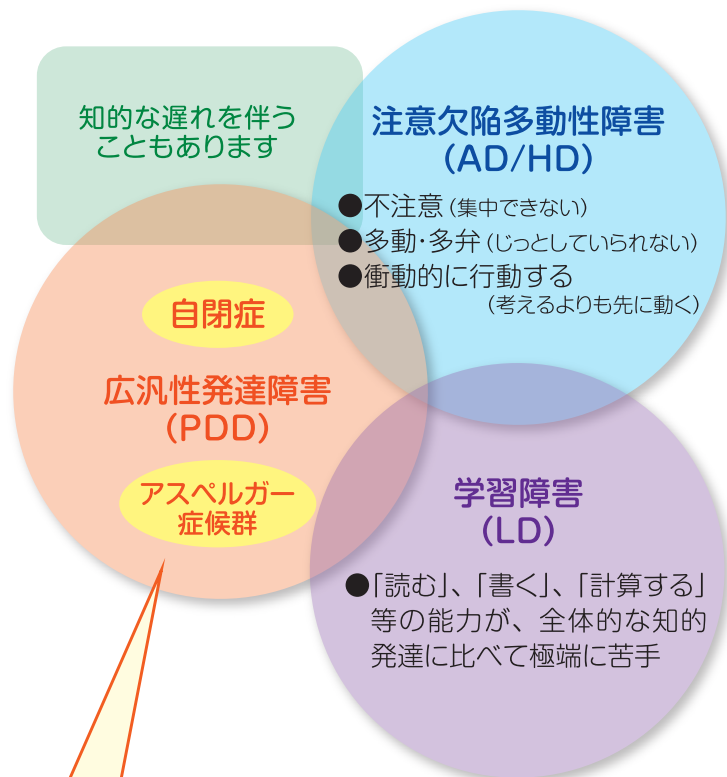
このような「特性」がいくつかみられた場合、「発達障害」の可能性もあります。

発達障害ってなに？

生まれつきの特性で、「病気」とは異なります。

脳の機能に何らかの障害があることによるものと考えられています。

育て方や、親の接し方、本人の努力不足が原因となって生じるものではありません！



- コミュニケーションの障害
- 対人関係・社会性の障害
- パターン化した行動、興味・関心のかたより

子どもの発達はそれぞれであり、個人差もかなりあります。気になることがあれば、まずは相談してみましょう。

子どもの特性に合わせた関わりが大切です



子どもにわかりやすい伝え方

- 絵やカードを使う**
ことばだけでなく、視覚的に示すと理解しやすい。
- 伝えるときは短くストレートに**
「〇〇してね。」
- なるべく禁止の言葉を少なくする**
「片付けしよう。」
「片付けは何時からする予定？」
- 具体的に伝える**
「〇〇をこの袋に入れて。」
「〇〇を机に置いて。」

- 上手にできたという体験を積み重ねることで自分に自信を持つことができる。**
- 自分を大切にできるようになり発達を促すことができる。**



子どもにわかりにくい伝え方

- 禁止する表現を使う**
「ダメ」「～してはいけません。」
言動を禁止されると次に何をしたいのかわからなくなり不安を感じる。
- 一度にいくつものことを伝える**
「片付けないと出かけられないでしょ。」
「〇〇が終わったら◆◆してね。」
- 曖昧な表現はイメージがづらい**
「あれ」「それ」「あっち」「そっち」
「そんなことしたらダメ。」
「あれ」などが何を指すのかわからない。

- 上手にできない、怒られたという体験を積み重ねることで子どもは「自分はできない」「大事にされていない。」と感じる。**
- 自分に自信が持てなくなる。**



ここに示した【関わり方や伝え方】はあくまでも一例です。子どもの発達はそれぞれ違いますから、専門家の話を聞いてみることも大切です。

